

# 変わる日本の「暮らし」と「まち」

マンモス団地誕生の地で  
命名50年を祝うイベントが開催

高島平50周年  
記念イベント  
(2019年・平成31年)

阿部民子

text by Taniko Abe



illustration: Shigeyuki Sakata

日本経済が飛躍的な発展を遂げた高度成長期。都市部へ流入する多くの人々の住宅不足を解消するため、各地に大規模な住宅地が次々と造成された。そのなかの代表が、東京都板橋区北部に位置する高島平だ。

この地は、江戸時代には徳丸ヶ原と呼ばれる幕府の鷹狩場だった。昭和30年頃までは東京の約7割の米を供給するともいわれた徳丸田んぼ・赤塚田んぼとして名を馳せた。その後、昭和40年頃から日本住宅公団（現UR）が土地区画整

## 多彩な催しで50歳を祝福

命名から50年を経た今年3月1日からの3日間。高島平各地で「HAPPY BIRTHDAY 高島平」と称した記念イベントが開催された。1日夜の「みんなで乾杯!」を皮切りに、記念シンポジウムや普段は入れない板橋市場



50周年記念イベントが開催された高島平団地

などの見学ツアー、マルシェなど、多彩な催しで賑わった。

高島平50周年記念事業実行委員会委員長であり、UDCTak（アーバンデザインセンター高島平）ディレクターを務める東京大学の

中島直人准教授に目的を伺った。

「UDCTakとは、民（町会連合会高島平支部・商店街連合会第7支部）・学（東京大学、大東文化大学、UDCネットワーク他）・公（板橋区・UR）が連携してま

ちづくりを推進する組織で、地域の見守りや防災、プロムナードの活用などさまざまなプロジェクトを進めています。今回はそこが運営事務局となり、高島平50周年を機により多くの人々を巻き込み、まちのこれまでとこれからを考えるきっかけになればと、イベントを企画しました」

プロジェクトの1つとして披露されたのが、「高島平ヘリテージ50」だ。これは、中島准教授の研究室と地域住民が、高島平の自然や遺跡、建築物など、50年の間に蓄積されてきたまちの資産50個を選定し、1枚のマップにまとめたもの。「自分の住むまちを知って愛着をもち、能動的に関わって将来に活かしてほしい」との願いが込められたマップは、すぐにくなるほどの人気を集めた。

## 地域医療福祉拠点化の取り組みも続々

1丁目から9丁目まである高島平。なかでも大きな存在が、2丁目・3丁目に広がる高島平団地だ。賃貸・分譲合わせて64棟、総戸数1万170戸。1972年から73年

に供給され、当時は東洋一のマンモス団地と謳われた。URの団地マネージャー三好朗は説明する。

「高島平団地の賃貸棟は全棟が高層棟でエレベーターが設置されています。しかも東京23区内で駅前立地、公共公益施設も集積していて生活も便利。団地内はとても賑わいがあり、入居をご希望される方も多くいらっしゃいます」

今回のイベントでURは「UR高島平団地ツアー スタンプラリー」を企画した。「団地にお住まいの方と外の方両方に、いまと昔の団地の魅力を再認識していただければ」と意図を語る。

そこで、まずは体験を、と団地ツアーに参加してみた。スタート地点の吉番街商店街では写真展を開催中。建築途中の団地や祭りの人で埋め尽くされた広場など、興味深い写真が目白押しだ。5歳の息子さんと見に来ていた武田信さんは「親の代から50年近く住んでいます。行政の出先機関が多いし、都営地下鉄も最初は巣鴨までだったのが、大手町や目黒方面までつながって便利。とても住みやすいですね」と話してくれた。

子どもが遊ぶ「お山の広場」や買い物客で賑わう中央商店街を横目に見ながら、次の「さわやか花壇」へ。ここはURが整備し、団地自治会が運営する共同花壇だ。ちょうど花の手入れをしていた春日山ミツさんにお話を伺った。

「4年前に始まった頃から参加していますが、いろいろな方とお話してできるし、外に出る機会になります。ここで友達になつて、みんなでお花を見に行ったり、楽しいですよ。これから、お花がきれいに咲くのも楽しみね」

3番目のポイントは、無印良品とコラボレーションした「MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト」のモデルルームだ。「こわしすぎず、つくりすぎない」というコンセプトでリノベーションされた部屋に、同じ団地に住むという女性は「どう変わったのか見に来たけど、使いやすそうね」と興味津々の様子だ。

ゴールは、おしゃれに改装された集会所。途中で出会った、2歳と5歳の女の子を連れだ若いお母さんは「公園や児童館も近いし、道路が広がってベビーカーも押しや

すい。お友達もいて、子育てしやすいですよ」と話してくれた。

今回巡った場所以外にも、高島平団地では、さまざまな取り組みが行われている。たとえば、板橋区医師会運営の在宅医療センターを団地内に誘致したり、サービス付き高齢者向け住宅や健康寿命サポート住宅の供給、生活支援アドバイザーによる電話での見守りなど、高齢者向けのサポートも手厚い。なかでも特徴的なのが、「高島平ココからステーション」だ。東京都健康長寿医療センターの運営で、保健師や心理士のほか、月曜日は医師による医療・保健相談も。イベント開催日は会場が満員になるほど人気だという。「このあたりに住んでいる方はコミュニティに対する意識が高く、地域活動が非常に活発。ポテンシャルの高さを感じています」と三好。これから先の50年へ向けて、高島平の新しい1年が始まった。

——— 街に、ルネッサンス ———



UR都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

【企画制作】新潮社